

特別研究会（共催）報告要旨（2003年3月13日）
「福祉と農村コミュニティ」

地域通貨と農村コミュニティ 新たなライフスタイルの登場

（北星学園大学）杉岡 直人

1. 地域通貨とライフスタイル

地域通貨（local community currency）は、LETS（local exchange trading system）やタイムダラーなどとあわせて扱われることが多い。それは、地域内空間で生活をするもの同士が互いの関係性を域内通貨の仲介により資源の交換システムとして顕在化させたもので、一種の地下経済的要素をもつ。お互いの合意にもとづき交換がおこなわれ、新たなライフスタイルの登場によるコミュニティの形成ツールとしてまちづくり関係者の中で注目されている。地域通貨による関係の循環をつくりだすメカニズムにおいて、農村としての特性をどうとらえるのか、そこにどのようなライフスタイルの変化を読み取ることができるのか、が問われる。今日的な課題としては、資本のグローバル化に対して地域経済を防御しながら、自律的な成長を遂げる可能性を模索するシステムとしても位置づけられる。本報告では、地域通貨の流通実験に取り組んでいる地域（栗山町）の事例を取り上げ、地域通貨の仕組みと現実の活動例、そしてどのような社会的効果を認めることが可能なのかを考察した。栗山町は、2001年の住民基本台帳で、総人口15,258人、世帯数6,071世帯となっており、産業別の就業人口をみると、第1次産業22.3%、第2次産業27.4%、第3次産業50.3%となっており、全国平均からみて、第1次産業人口比率は高い。

2. アンケート結果にみるエコマネー参加者と一般町民の比較

イ) エコマネー参加者は地域活動には積極的なことと、近所付き合いの積極性がみとめられた。いわば、意欲的な住民がエコマネーに参加しているといえる。ロ) エコマネーの

経験とサービス利用経験の関連をクロス表分析によってみると、同種の交換（例えば、趣味スポーツ同士や家事・買い物・福祉・病院などの活動ごと同士）をおこなっている。ハ) 社会統合や連帯性あるいはコミュニティへの帰属意識、愛着感などの関係で、エコマネー参加者と一般町民を比較するとエコマネー参加者グループの方が有意に高いスコア値を示した。

ニ) リーダーシップスタイルは、パフォーマンス（支持実行力）スコアについては平均値の差がみられず、メンテナンス（関係調整力）スコアに関してエコマネー参加者の方が高く（有意差1%水準）、エコマネー参加者の関係調整能力は、仲間と協調して活動するという特徴がみられた。

3. 考察

国内の地域通貨への関心と取り組みのエネルギーをみるかぎり、相当数の市民が新たな公共の担い手となることに関心と意欲をもち、かつコミュニティを自分たちで守ろうとする意識が強くなっている。農村のライフスタイルは、IT化の推進によって大きく変化することは避けられない。農村地域にIT化促進のための政策的投資を大胆に行い、農村的ライフスタイルの定着化と人口の分散、小規模有機栽培農家の漸増を図ることが国民食糧と自給率を確保し、外交政策上の安定性を確立する重要な鍵となる。

[付記] 本稿は、平成14年度科学研究費補助金「ステイクホルダー理論による公私協働モデルの実証的研究」および、平成13、14年度日本生命財団高齢社会福祉実践的研究助成「エコマネーの地域導入（栗山町）における実践と効果測定」の共同研究の研究成果の一部で、農林水産政策研究所と農政調査委員会共催による農村福祉研究会で報告したものである。